

プ ロ グ ラ ム  
シンポジウム 関連講演  
特 別 企 画 講 演  
企 画 講 演  
シ ン ポ ジ ウ ム  
企 画 セ ッ シ ョ ン  
マ ラ ソ ン レ ク チ ャ ー  
プ レ コ ン グ レ ス シ ン ポ ジ ウ ム  
ポ ス ト コ ン グ レ ス シ ン ポ ジ ウ ム  
第 9 回 て ん か ん 専 門 医 指 導 医 講 習 会  
第 13 回 て ん か ん 学 研 修 セ ミ ナ ー  
市 民 公 開 講 座



---

シンポジウム 1 関連講演 第 1 会場 (501+502) 第 1 日/10 月 25 日(木) 9:00~9:50

---

座長：前原 健寿 (東京医科歯科大学脳神経外科)

**SR1** Optimising Strategies, and innovating surgical techniques to make Epilepsy Surgery more affordable in developing countries

○P Sarat Chandra<sup>1)</sup>、Manjari Tripathi<sup>2)</sup>

1) Professor, Dept of Neurosurgery, In Charge, Center of Excellence for Epilepsy, All India Institute Of Medical Sciences (AIIMS), Delhi, India

2) Professor, Dept of Neurology, All India Institute Of Medical Sciences (AIIMS), Delhi, India

---

シンポジウム 2 関連講演 第 3 会場 (303) 第 1 日/10 月 25 日(木) 9:00~9:50

---

座長：小林 勝弘 (岡山大学)

**SR2** 多彩な臨床像を持つ年齢依存性てんかん

Age-dependent epilepsy

○浅野 英司

Departments of Pediatrics and Neurology, Wayne State University, Children's Hospital of Michigan, Detroit, USA.

---

シンポジウム 3 関連講演 第 1 会場 (501+502) 第 1 日/10 月 25 日(木) 16:00~16:50

---

座長：小国 弘量 (TMG あさか医療センターてんかんセンター、東京女子医科大学小児科)

**SR3** Neurometabolic Treatments for Epilepsy : Scientific Basis and Clinical Evidence

○Jong M. Rho

Cumming School of Medicine, University of Calgary

---

シンポジウム 4 関連講演 第 1 会場 (501+502) 第 2 日/10 月 26 日(金) 9:00~9:50

---

座長：須貝 研司 (ソレイユ川崎、聖マリアンナ医科大学小児科)

**SR4** Treatments for Status Epilepticus

○James John Riviello

Texas Children's Hospital, Baylor College of Medicine

---

シンポジウム 5 関連講演 第 2 会場 (503) 第 2 日/10 月 26 日(金) 9:00~10:00

---

座長: 稲垣 真澄 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)

**SR5** 神経発達症とてんかん  
Neurodevelopmental disorder and Epilepsy

- 中川 栄二  
国立精神・神経医療研究センター病院小児神経科

---

シンポジウム 7 関連講演 第 1 会場 (501+502) 第 2 日/10 月 26 日(金) 13:10~14:50

---

座長: 飛松 省三 (九州大学大学院医学研究院・臨床神経生理)

**SR7** The key role of the thalamus in focal epilepsy

- Edward H. Bertram  
University of Virginia

---

シンポジウム 8 関連講演 第 2 会場 (503) 第 2 日/10 月 26 日(金) 14:00~14:50

---

ウイルス感染に伴う難治性てんかんの自然寛解

座長: 高橋 幸利 (国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター)

**SR8-1** ウイルス感染に伴う難治てんかんの自然寛解  
Spontaneous resolution of intractable epileptic seizures following acute viral infections

- 山本 仁  
聖マリアンナ医科大学

**SR8-2** ウイルス感染に伴う難治性てんかんの自然寛解—脳波所見、抗カルジオリピン抗体、2-5 AS 活性の変化—  
Spontaneous remission following viral infection in intractable childhood epilepsy—Changes of EEG findings, Serum levels of aCL antibody and 2-5AS

- 藤田 之彦<sup>1)</sup>、冨尾 則子<sup>2)</sup>  
1) 日本大学医学部 IR・医学教育センター 2) 日本大学医学部附属板橋病院小児科

---

特別企画講演 1 第 1 会場 (501+502) 第 2 日/10 月 26 日(金) 16:10~16:40

---

座長: 森本 清 (公益財団法人仁和会ももの里病院)

**SP1** てんかん診療における薬剤業務の展望  
Future prospects of pharmaceutical services in the management of patients with epilepsy

- 浦 裕之<sup>1)</sup>、太組 一郎<sup>2)</sup>、島田 慰彦<sup>1)</sup>  
1) 湘南東部総合病院薬剤科 2) 聖マリアンナ医科大学医学部脳神経外科

---

特別企画講演 2                      第 1 会場 (501+502) 第 2 日/10 月 26 日(金)                      16:50~17:50

---

日本てんかん学会と連携したてんかん対策の推進について

座長：大澤 眞木子（東京女子医科大学名誉教授）

SP2-1      てんかん拠点病院制度の意義と今後について

○溝口 晃壮

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課心の健康支援室、依存症対策推進室（併任）、公認心理師制度推進制度推進室（併任）、室長補佐

SP2-2      てんかん拠点病院と連携したてんかん対策の道のりと今後について

○秋野 公造

参議院議員・長崎大学客員教授

---

特別企画講演 3                      第 1 会場 (501+502) 第 2 日/10 月 26 日(金)                      18:00~18:30

---

座長：池田 昭夫（京都大学大学院医学研究科てんかん・運動異常生理学講座）

SP3      「Hans Berger 褒賞」受賞者研究計画発表

【小児科】

発表者：美根 潤（静岡てんかん・神経医療センター）

研究計画：てんかんのある子どもとその家族のための学習プログラム famoses（Modulares Schulungsprogramm Epilepsie für Familien）の有用性に関する研究

【精神科】

発表者：曾根 大地（UCL Institute of Neurology, Dept. of Clinical & Experimental Epilepsy）

研究計画：機能的・構造的 MRI を用いた、てんかんにおける不安・うつメカニズムの解明

【脳神経外科】

発表者：松原 鉄平（九州大学大学院医学研究院臨床神経生理）

研究発表：新しい信号源分離解析による発作間欠期てんかん性放電の抽出と解析支援ツールの開発

【脳神経内科】

発表者：音成 秀一郎（広島大学脳神経内科）

研究計画：広帯域皮質脳波を用いた運動関連皮質の脳機能マッピングのアルゴリズム：てんかん外科の皮質電気刺激検査からの合理的発展の試み

【神経内科】

発表者：豊田 知子（産業医科大学）

研究計画：歯状核赤核淡蒼球ルイ体委縮症（DRPLA）モデルマウスの病態解析及び治療的介入試験

【精神科】

発表者：宮島 美穂（東京医科歯科大学心療・緩和医療学分野）

研究計画：マルチモダリティウェアラブルセンシングによるてんかん突然死リスクモニタリング

---

特別企画講演 4                      第 3 会場 (303)   第 3 日/10 月 27 日(土)                      10:50~11:50

---

座長：渡辺 英寿（自治医科大学脳神経外科）

SP4                      ロボトミー小史…脳疾患治療に携わる者が知るべき社会史…

History of psychosurgery: Knowledge for people contributing to therapy for brain diseases

○田中 雄一郎

聖マリアンナ医科大学脳神経外科

---

企画講演                                      第 4 会場 (304)   第 2 日/10 月 26 日(金)                                      9:00~9:50

---

座長：太組 一朗（聖マリアンナ医科大学脳神経外科学・てんかんセンター）

PL                                      遠隔医療・オンライン診療は何をもたらすのか

What does tele-/online-medicine bring to epilepsy care?

○中里 信和、柿坂 庸介、神 一敬

東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野

---

シンポジウム 1                                      第 1 会場 (501+502)   第 1 日/10 月 25 日(木)                                      10:00~11:50

---

てんかん外科の世界的趨勢と日本における今後の展開

座長：川合 謙介（自治医科大学医学部脳神経外科）

太組 一朗（聖マリアンナ医科大学脳神経外科学・てんかんセンター）

【趣旨・狙い】

てんかんの包括的治療において、外科治療は欠かすことのできない存在である。標準的外科治療の適応や術後転帰はかなり明確化されたが、実際の治療内容には常に外科医間、施設間の差異がある。日本では総じて手術手技のレベルは高いが、革新的な治療機器の導入が遅れがちである。このような観点から、日本への導入が遅れている SEEG、RNS、Laser ablation を取り上げ、海外での実態と日本での展開について情報を得る。さらに手術手技として側頭葉手術と脳梁離断について、海外との差異を検討してゆく。

S1-1                                      SEEG の有効性と限界、そして日本での展開

Clinical application of SEEG—efficacy and limitation—

○國枝 武治<sup>1)</sup>、稲田 拓<sup>2)</sup>、菊池 隆幸<sup>2)</sup>、小林 勝哉<sup>3)</sup>、吉田 和道<sup>2)</sup>、松本 理器<sup>3)</sup>

1) 愛媛大学医学部脳神経外科学 2) 京都大学医学部脳神経外科学 3) 京都大学医学部臨床神経学

**S1-2 てんかん外科における RNS の可能性と課題**

Responsive Neurostimulation : newly developed neuromodulation system for intractable epilepsy

○稲次 基希<sup>1)</sup>、山本 貴道<sup>2)</sup>、川合 謙介<sup>3)</sup>、前原 健寿<sup>1)</sup>、Werner Doyle<sup>4)</sup>

1) 東京医科歯科大学脳神経外科 2) 聖隷浜松病院てんかんセンター 3) 自治医科大学脳神経外科

4) Department of Neurosurgery, New York University Langone Medical Center

**S1-3 側頭葉てんかんの手術と低侵襲治療：世界と日本**

Conventional and future epilepsy surgery for TLE : World and Japan

○國井 尚人<sup>1)</sup>、川合 謙介<sup>2)</sup>、斉藤 延人<sup>1)</sup>

1) 東京大学医学部附属病院脳神経外科 2) 自治医科大学脳神経外科

**S1-4 脳梁離断術の国際的な位置付けと日本での今後の課題**

Current position and future issues of corpus callosotomy

○小野 智憲<sup>1)</sup>、馬場 啓至<sup>2)</sup>、戸田 啓介<sup>3)</sup>、馬場 史郎<sup>4)</sup>

1) 国立長崎医療センターてんかんセンター 2) 西諫早病院てんかんセンター

3) 国立長崎川棚医療センター脳神経外科 4) 長崎大学脳神経外科

共催：エーザイ株式会社メディカル本部

---

シンポジウム 2

第 3 会場 (303) 第 1 日/10 月 25 日(木)

10 : 00 ~ 11 : 50

---

**スパズムの起源を探る**

座長：大坪 宏 (トロント小児病院神経科)

【趣旨・狙い】

近年 EPILEPTIC SPASM の診断と治療が注目されています。ILAE の 2017 年の SEIZURE TYPE CLASSIFICATION では FOCAL、GENERAL、UNKNOWN ONSET の三つに含まれています。この SESSION では SPASM を長年、研究・診断・治療されてきたエキスパートの先生方にスパズムの歴史、CORPUS CALLOSUM の意義、神経生理学的なメカニズムと病理について発表していただき、スパズムの起源を探ってみたいと思います。

**S2-1 てんかん性スパズムの歴史**

A historical aspect of epileptic spasms

○小国 弘量<sup>1,2)</sup>

1) TMG あさか医療センター・てんかんセンター 2) 東京女子医科大学小児科

**S2-2 ウエスト症候群におけるてんかん性スパズムの発作発生機序；脳梁離断術を行った例からの考察**

Seizure mechanism of epileptic spasms in West syndrome based on surgical results from the corpus callosotomy

○馬場 啓至

西諫早病院脳神経外科・てんかんセンター

- S2-3 Spasms の発作時・発作間欠時脳波における徐波と速波振動**  
Meaning of fast oscillations and slow waves in the ictal and interictal EEG of spasms  
○小林 勝弘  
岡山大学大学院発達神経病態学
- S2-4 スパズムの病理**  
The histopathology of epileptic spasms  
○大坪 宏  
トロント小児病院神経科

---

シンポジウム 3                      第 1 会場 (501+502)    第 1 日/10 月 25 日(木)                      17:00~18:50

---

### ケトン食療法の最前線 2018

座長：小国 弘量 (TMG あさか医療センターてんかんセンター、東京女子医科大学小児科)  
今井 克美 (国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター小児科)

#### 【趣旨・狙い】

ケトン食(KD)療法は、低炭水化物、高脂肪食を摂取することにより体内に多量のケトン体を産生維持し、薬剤治療抵抗性のてんかん発作を抑制する食事療法である。KD 療法は、非常に強い抗けいれん作用を持つにも関わらず眠気や鎮静作用などの副作用が少ないが、その抗けいれん作用機序ははまだ解明されていない。ケトン体が産生されやすい 2~8 歳が最もよい適応対象とされていたが、ケトンミルクや修正アトキンス食が開発され、乳児期から成人期まで試みることが可能となっている。その KD 開始時期に関しては GLUT1DS では診断が疑われれば直ちに、難治性てんかんでも最後の治療手段ではなく 2~3 剤の抗てんかん薬が無効であれば早期に開始することが推奨されている。今回のシンポジウムでは、KD 療法の歴史から最新の治療経験、さらに抗けいれん作用機序をめぐる基礎研究について討論する。

- S3-1 ケトン食療法の歴史**  
The history of the ketogenic diet  
○伊藤 進  
東京女子医科大学小児科
- S3-2 ケトンミルクを利用したケトン食療法**  
Ketogenic diet using a Japanese ketogenic milk for patients with epilepsy  
○熊田 知浩  
滋賀県立小児保健医療センター小児科
- S3-3 てんかん症候群・関連疾患とケトン食療法**  
○今井 克美  
国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター小児科

- S3-4**      **グルコーストランスポーター 1 欠損症を含む代謝性てんかんとケトン食療法**  
Ketogenic diet and metabolic epilepsy including glucose transporter 1 deficiency  
○青天目 信<sup>1,2)</sup>  
1) 大阪大学大学院医学系研究科小児科学 2) 大阪大学医学部附属病院てんかんセンター
- S3-5**      **ケトン食の作用機序解明から治療薬創製に向かって**  
Antiseizure mechanisms of ketogenic diet and drug development based on the mechanisms  
○井上 剛  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科生体物理化学分野

---

シンポジウム 4                      第 1 会場 (501+502)    第 2 日/10 月 26 日 (金)                      10:00~11:50

---

**難治性てんかん重積治療と予後について**

座長：須貝 研司 (ソレイユ川崎・聖マリアンナ医科大学小児科)

菊池 健二郎 (東京慈恵会医科大学小児科学講座)

**【趣旨・狙い】**

てんかん重積の治療の対象、原因と手順は、二次診療施設、三次診療施設、救命救急センターで異なり、小児と成人でも異なる。予後は原因により異なる。小児のけいれん重積ガイドライン、成人のてんかん診療ガイドライン 2018 が出されたが、難治性てんかん重積をではガイドライン通りに行かないことも多く、また施設間の連携も必要である。いろいろなレベルでの状況を理解していれば、連携もスムーズになり、より適切な治療と予後につながると思われる。初期にてんかん重積にぶつかる二次診療施設、難治性てんかん重積が運ばれる三次診療施設、そしてけいれんの原因が救命にかかわり、最初から重症治療を要する救命救急センターから、対象と原因、手順、予後を発表いただき、さらに三次施設では小児と成人に分けて、いろいろな立場からてんかん重積について発表、討議していただくことで、より有効な難治性てんかん重積の治療の理解を深めることを目指す。

- S4-1**      **二次救急病院におけるけいれん重積症の治療**  
How to control status epilepticus at an initial emergency hospital  
○村上 貴孝  
中野こども病院
- S4-2**      **三次診療施設における小児のけいれん重積治療と予後**  
Treatment and outcome of status epilepticus in childhood at a tertiary medical center  
○永瀬 裕朗<sup>1)</sup>、丸山 あずさ<sup>2)</sup>  
1) 神戸大学医学部附属病院小児科・親と子の心療部 2) 兵庫県立こども病院神経内科
- S4-3**      **成人のてんかん重積状態の治療と予後**  
Treatment and prognosis of status epilepticus in adult  
○矢口 裕章  
市立札幌病院神経内科

#### S4-4 救命救急センターにおけるけいれん重積治療と予後

Treatment and prognosis of status epilepticus at an emergency and critical care center

- 新井 隆男<sup>1)</sup>、須永 茂樹<sup>2)</sup>、大塚 邦紀<sup>1,2)</sup>、弦切 純也<sup>1)</sup>、長田 雄大<sup>1)</sup>、星合 朗<sup>1)</sup>、  
大村 泰史<sup>3)</sup>、佐野 秀史<sup>1)</sup>、田中 洋輔<sup>3)</sup>、櫻井 将継<sup>1)</sup>、守屋 まりこ<sup>1)</sup>、奥村 栄太郎<sup>2)</sup>、  
山中 浩史<sup>3)</sup>、神保 洋之<sup>2)</sup>

1) 東京医科大学八王子医療センター救命救急センター

2) 東京医科大学八王子医療センター脳神経外科 3) 日野市立病院救急科

シンポジウム 5

第 2 会場 (503) 第 2 日/10 月 26 日(金)

10:00~11:50

#### てんかんと発達障害の包括的診断と治療

座長：中川 栄二 (国立精神・神経医療研究センター病院小児神経科)

金村 英秋 (山梨大学医学部小児科)

##### 【趣旨・狙い】

発達障害ではてんかんの併存率が高く、自閉スペクトラム症(ASD)では5~38%にてんかんが併存するが、知的障害をともなう場合は、知的障害がない例の約3倍にてんかんの併存が報告されている。ASDでのてんかん発作の発症時期は、1~5歳の幼児期と11~18歳の思春期に二峰性に認められる。注意欠如多動症(ADHD)では12~17%にてんかんの併存が報告されている。てんかんの小児では、ASD、ADHD、限局性学習障害(SLD)の発達障害の併存率が非てんかん群よりも高く、てんかん児の20%でASD、30%でADHDの併存が報告されている。そのうち3分の2がてんかん発症後に新たに発達障害と診断されている。また抑うつや不安、強迫性障害、気分障害などの精神障害の合併も若年発症であるほど高い。てんかんに発達障害が併存する場合は、早期に診断し、家族指導や環境調整対応を第一とした上で、薬物治療を行う際には、抗てんかん薬等の特性や相互作用を考慮する必要がある。

#### S5-1 てんかんと自閉スペクトラム症の診断と治療

Diagnosis and Treatment of Epilepsy commorbid with ASD

- 中川 栄二

国立精神・神経医療研究センター病院小児神経科

#### S5-2 てんかんと注意欠如多動症の診断と治療

Treatment strategy for epilepsy and ADHD

- 金村 英秋

山梨大学医学部小児科

#### S5-3 難治てんかんと発達障害の外科治療と発達予後

Developmental outcome and neurobehavioral comorbidities after epilepsy surgery for children with drug-resistant epilepsy

- 本田 涼子<sup>1)</sup>、小野 智憲<sup>2)</sup>、渡邊 嘉章<sup>1)</sup>、戸田 啓介<sup>3)</sup>、安 忠輝<sup>1)</sup>、田中 茂樹<sup>1)</sup>、  
馬場 啓至<sup>4)</sup>

1) 国立病院機構長崎医療センター小児科 2) 国立病院機構長崎医療センター脳神経外科

3) 国立病院機構長崎川棚医療センター脳神経外科 4) 西諫早病院脳神経外科

**S5-4 てんかんと発達障がいの早期診断と早期対応**

Early diagnosis and support for children with epilepsy and developmental disorder

○永井 利三郎

桃山学院教育大学

---

シンポジウム 6

第 4 会場 (304) 第 2 日/10 月 26 日 (金)

10:00~11:50

---

**てんかんと自動車運転をめぐる最近の話題**

座長：久保田 英幹（国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター）

宮本 雄策（川崎市立多摩病院小児科）

**【趣旨・狙い】**

てんかんと自動車運転免許については毎年学術集会において企画セッションが開催され、それぞれ多数の参加者と反響を得ている。自動車運転免許が取得可能か否かは、生活環境によって患者の衣食住に直結する場合もあり、てんかん診療に携わる医師にとって、継続して正しい知識を習得する機会が必要である。さらに社会への情報発信も学会の使命であると考え本シンポジウムを企画した。

企画者自身も運転適性診断書を数多く記載した経験のある主治医であるが、自らの法的責任については正確に理解出来ておらず、学ぶ機会が必要と感じていた。さらに最近話題となっている自動運転システムを含む運転補助装置が、てんかん患者の自動車運転についてどのような影響を与えていくかについては、患者本人から質問を受けた経験もあり、多くの関係者が興味を持たれている事と推測する。これらの歴史と現状を正しく理解し、限界を知りつつ希望を持てるようなシンポジウムにしたいと考えている。

今回はこれらの話題について、各領域の専門家にご登壇頂き情報提供を行っていきたい。

**S6-1 制度の概要と医学的問題点**

Guideline and Medical issue

○久保田 英幹

国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

**S6-2 てんかんと自動車運転免許の法律問題**

Legal regulations for automobile driving in patients with epilepsy

○高山 俊吉

高山法律事務所

**S6-3 “ぶつからないクルマ？” スバルが生んだアイサイトの秘密**

“Collision-free Vehicle?” The secret of SUBARU’s EyeSight(r) Driver Assist Technology

○樋渡 稜

株式会社 SUBARU

## てんかんに対する最新のモダリティを使った脳内コネクトーム解析—MRI、MEG、そして EEG-fMRI

座長：前澤 聡 (名古屋大学脳とこころの研究センター・脳神経外科)

## 【趣旨・狙い】

近年、全般性、焦点性に関わらず、てんかん全てをネットワーク疾患とする概念が浸透しつつある。この概念を基盤として、MRI(構造画像、機能画像、DTI)や、MEG(脳磁図)、EEG-fMRI(脳波—機能的 MRI 同時記録)といった非侵襲性モダリティを使い、最先端の解析技術を駆使して、脳内の解剖学且つ機能的単位の個々の特異性や、結合を解析する事で、てんかんの焦点や伝播経路といった病態に迫る研究が注目されている。本シンポジウムでは、この分野の最先端を進む研究者達より、これらの研究の現状について報告して頂き、今後の方向性を議論して頂く。解析原理から実際の臨床応用例まで提示して頂く、教育的シンポジウムとする。参加者のゴールは、各モダリティの基本原理の理解、コネクトームを含む解析手法の理解、臨床応用の実際の理解とする。

- S7-1 脳画像とグラフ理論を用いた神経ネットワーク解析—Overview and Perspectives—**  
Brain network analysis using neuroimaging and graph-theory : overview and perspectives  
○曾根 大地  
Institute of Neurology, University College London, London, UK
- S7-2 EEG-fMRI による難治性てんかんの解析～最新の知見を交えて～**  
EEG-fMRI analysis in intractable epilepsy  
○伊藤 祐史<sup>1,2)</sup>  
1)愛知県三河青い鳥医療療育センター小児科 2)名古屋大学大学院医学系研究科小児科学
- S7-3 MEG によるてんかんネットワークの解析—てんかんに関わる“zone”と“connectivity”の解析—**  
Network analyses using MEG—Analyses of “zone” and “connectivity” related to epilepsy—  
○白水 洋史  
国立病院機構西新潟中央病院機能脳神経外科
- S7-4 Spike Onset Zone と EEG-fMRI 解析**  
Spike onset zone and EEG-fMRI  
○HUI MING KHOO<sup>1,2)</sup>、Nicolas von Ellenrieder<sup>2)</sup>、Natalja Zazubovits<sup>2)</sup>、Danial He<sup>2)</sup>、  
谷 直樹<sup>1)</sup>、押野 悟<sup>1)</sup>、貴島 晴彦<sup>1)</sup>、Francois Dubeau<sup>2)</sup>、Jean Gotman<sup>2)</sup>  
1)大阪大学医学系研究科脳神経外科 2)Montreal Neurological Institute, McGill University

**てんかんにおける免疫学的反応の解析**

座長：山本 仁 (聖マリアンナ医科大学小児科/聖マリアンナ医科大学病院てんかんセンター)

岡田 元宏 (三重大学大学院精神神経科学分野)

**【趣旨・狙い】**

てんかんの病態と感染症、炎症、免疫学的反応との関連が近年注目を浴びている。本シンポジウムでは、感染症に伴っててんかん発作が増減するメカニズムの解明を中心に様々な観点からてんかん発作と免疫学的反応の関係を論じたい。

**S8-1 細胞傷害性 T 細胞の役割**

Role of cytotoxic T cells

○高橋 幸利

国立病院機構静岡てんかん神経医療センター

**S8-2 SCN1A 遺伝子変異症例における免疫学的反応の解析**

Immunological characteristics of SCN1A-related epilepsy

○倉橋 宏和

愛知医科大学医学部小児科

**S8-3 てんかん発作における炎症性サイトカインの役割**

Astroglial transmission: novel target of antiepileptic drug

○岡田 元宏、福山 孝治

三重大学医学系研究科精神神経科学分野

**てんかんと犬と猫：医学—獣医学トランスレーショナルリサーチ**

座長：長谷川 大輔（日本獣医生命科学大学獣医放射線学研究室）

橋詰 清隆（いずみ記念病院）

**【趣旨・狙い】**

てんかんはほぼ全ての哺乳動物で生じうる脳疾患であり、ペットの犬や猫でも一般的に認められ、獣医療において診断、治療が行われている。一方最近の脳疾患の基礎実験では、主としてラット、マウスが用いられているが、脳回形成がなく、体サイズも小さいことなどから臨床に則した研究には限界がある。現在、米国を中心にペットの犬や猫で自然発生する脳疾患がヒト疾患モデルとして注目され、脳腫瘍、ライソゾーム病、認知症などで医学—獣医学の連携研究が盛んに行われている。以前ネコはキンドリング、カイニン酸など様々な研究に用いられ、現代てんかん学の礎となった動物とって過言ではない。これらの背景の下、本企画では実験動物としてのイヌやネコと、てんかん患者としての犬や猫について学び、てんかんにおける医学—獣医学トランスレーショナル研究を議論するとともに、もう1つのてんかんと動物の関わりとしててんかん介助犬を取り上げる。

**S9-1 Kindring とカイニン酸誘発てんかんモデル—2次性全般化発作機序への挑戦**

Kindling and kainic acid-induced epilepsy models in the cats—challenge to the generalization mechanism

○田中 達也

やまびこ医療福祉センター

**S9-2 てんかん介助犬**

Seizure response dog, seizure alert dog

○村上 達也

社会医療法人弘道会萱島生野病院

**S9-3 獣医療における犬と猫のてんかん**

Epilepsy in dogs and cats—from the standpoint of veterinary medicine

○齋藤 弥代子

麻布大学獣医学部獣医学科

**S9-4 てんかんにおける医学—獣医学トランスレーショナル研究**

Medicine-Veterinary medicine translational research in epilepsy

○長谷川 大輔

日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科

共催：DS ファーマアニマルヘルス株式会社

**てんかんディベート「ちょっと困るこんな症例」**

座長：奥村 彰久（愛知医科大学小児科）

貴島 晴彦（大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科）

**【趣旨・狙い】**

てんかんの診療では、おやっと思う症例に遭遇することが稀ではないと思われる。今回のディベートで扱うのは、決して著しく治療抵抗性でよい手がないという場合ではなく、多くの会員がよく出会うであろうちょっと困る症例である。そのような時、自分ひとりで咄嗟に判断することは容易でなく、他の医師の意見を聞いてみたくもなることもあるだろう。今回は 4 人の演者に症例を提示して頂き、診断や治療についてざっくばらんにディベートを行いたい。インタラクティブなディスカッションができるよう準備を整える予定である。

**PS1-1 欠神発作、どのように診療されていますか？**

Diagnosis and treatment of absence seizures

○倉橋 宏和

愛知医科大学医学部小児科

**PS1-2 全般てんかんか部分てんかんか**

Generalized epilepsy or focal epilepsy?

○本田 涼子<sup>1)</sup>、仲村 貞郎<sup>2)</sup>

1) 国立病院機構長崎医療センター小児科 2) 琉球大学医学部付属病院小児科

**PS1-3 薬剤抵抗性の MRI 陰性側頭葉てんかんに対して外科手術を行った中年女性例**

A case of surgically treated middle-aged woman with medically intractable MRI-negative temporal lobe epilepsy

○宇田 武弘、中条 公輔、田上 雄大、高 沙野、宇田 裕史、馬場 良子、大西 洋平、大畑 建治

大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科

**PS1-4 前頭葉てんかん？全般性てんかん？**

Frontal lobe epilepsy? Generalized epilepsy?

○谷 直樹、押野 悟、Hui Ming Khoo、柳澤 琢史、山本 祥太、橋本 洋章、平田 雅之、貴島 晴彦

大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科

**生き生きしたてんかん医療地域連携とてんかん診療拠点機関の役割**

座長：川合 謙介（自治医科大学医学部脳神経外科）

山内 秀雄（埼玉医科大学病院てんかんセンター・小児科）

**【趣旨・狙い】**

本企画は「てんかん医療の地域性と連携」をキーワードとし、地域によって異なるてんかん診療の状況の特異性と問題点を明らかにし、その特性に応じたてんかん診療連携を構築するための方策を患者と行政の意見も交え総合的に議論し、互いに顔が見える診療連携のためのネットワークとそれらのリーダーシップを担う地域てんかん診療拠点機関がなすべき役割の提言を行う。

**PS2-1 都市部におけるてんかん診療連携の現状と問題点、その課題と方策**

Current problems and solutions on clinical network for patients with epilepsy in metropolitan area

○菅野 秀宣<sup>1)</sup>、原 恵子<sup>2)</sup>、前澤 聡<sup>3)</sup>、中野 美佐<sup>4)</sup>、安元 佐和<sup>5)</sup>

1) 順天堂大学順天堂てんかんセンター脳神経外科 2) 原クリニック

3) 名古屋大学脳とこころの研究センター・医学系研究科脳神経外科

4) 市立吹田市民病院神経内科 5) 福岡大学医学部医学教育推進講座

**PS2-2 へき地におけるてんかん診療の現状と課題**

Current situation and challenges in medical practice for epilepsy in rural districts of Japan

○大谷 啓介、内山 拓、石下 洋平、五味 玲、川合 謙介

自治医科大学医学部脳神経外科

**PS2-3 てんかん地域診療連携体制整備事業**

Improvement projects provided for in the regional collaboration with epilepsy healthcare

○中川 栄二、齋藤 貴志、岩崎 真樹、岡崎 光俊、須貝 研司

国立精神・神経医療研究センター病院てんかんセンター

**PS2-4 互いの顔が見える地域診療連携のためのてんかん診療ネットワークの構築**

Establishment of epilepsy medical network for community practice cooperation

○飯田 幸治<sup>1,2)</sup>、香川 幸太<sup>1,2)</sup>、瀬山 剛<sup>1,2)</sup>、岡村 朗健<sup>1,2)</sup>、橋詰 顕<sup>1,2)</sup>、石川 暢恒<sup>2,3)</sup>、山下 英尚<sup>2,4)</sup>、丸山 博文<sup>2,5)</sup>、栗栖 薫<sup>1)</sup>

1) 広島大学脳神経外科 2) 広島大学病院てんかんセンター 3) 広島大学小児科

4) 広島大学精神科 5) 広島大学脳神経内科

**PS2-5 全国どこでも同水準の「専門医療」と「相談窓口」の体制整備こそが今急務**

Maintenance of “professional medical treatment” and “inquiry counter” to which the whole country is identical is urgent business

○田所 裕二

日本てんかん協会（波の会）

**PS2-6 日本てんかん学会のミッション：てんかん診療の多様性に対して均てん化への方策**

Mission of JES for improvement of epilepsy care in all range of age

○池田 昭夫

京都大学大学院医学研究科てんかん・運動異常生理学講座

---

企画セッション 3

第 2 会場 (503) 第 1 日/10 月 25 日(木)

13:10~15:00

---

**第 2 の内側側頭葉てんかんの原因—扁桃肥大**

座長：渡邊 雅子 (新宿神経クリニック)

赤松 直樹 (国際医療福祉大学医学部神経内科/福岡山王病院)

**【趣旨・狙い】**

海馬硬化が内側側頭葉てんかん(mTLE)の最も多い原因であることは周知の事実であるが、動物のキン  
ドリングにおいててんかん原性を最も獲得しやすい扁桃体については、これまで臨床ではあまり注目され  
てこなかった。しかし、3TMRI の導入に伴い、扁桃体肥大(AE)に基づく TLE は決して少なくないこと  
がわかってきた。特に高齢発症てんかんの原因として、あるいはこれまで MRI ネガティブとされてきた  
TLE の原因として注目されている。

本シンポジウムでは、AE を伴う TLE の 1)感情を中心とした精神症状について、2)自己免疫性脳炎との  
関係、3)画像所見の特徴、4)外科手術と病理について、各領域の専門家の経験をご発表いただき、多彩  
な切り口で AE に基づく TLE についての知識を共有する。

これらの集積から、AE が海馬硬化に次ぐ第 2 の MTLE の原因である可能性を認識し、今後のてんかん学  
とてんかん診療に役立てていく。

**PS3-1 扁桃体肥大を伴うてんかんと精神症状**

Psychiatric symptoms in epilepsy with amygdala enlargement

○谷口 豪<sup>1)</sup>、藤岡 真生<sup>1)</sup>、田宗 秀隆<sup>1)</sup>、西田 拓司<sup>2)</sup>

1) 東京大学医学部附属病院精神神経科 2) 国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

**PS3-2 扁桃体肥大と自己免疫てんかん**

Amygdalar enlargement and autoimmune epilepsy

○三枝 隆博

大津赤十字病院脳神経内科

**PS3-3 扁桃体肥大を伴う側頭葉てんかんの神経画像—Pros and Cons—**

Neuroimaging in temporal lobe epilepsy with amygdala enlargement : pros and cons

○曾根 大地

Institute of Neurology, University College London, London, UK

**PS3-4 扁桃体肥大による側頭葉てんかんの手術よりてんかん原性を考える**

Assessment of epileptogenicity from epilepsy surgery for patients with amygdala enlargement

- 菅野 秀宣、鈴木 皓晴、中島 円、飯村 康司、三橋 匠、新井 一、布施木 恵子  
順天堂大学てんかんセンター脳神経外科

---

企画セッション 4

第 3 会場 (303) 第 1 日/10 月 25 日(木)

13:10~15:00

---

**海外で活躍する日本人てんかん診療医とてんかんコメディカル**

座長：大坪 宏 (トロント小児病院神経科)

**【趣旨・狙い】**

海外でてんかん診療に携わる日本人てんかん診療医・技師に話を聴く。ご自身の研究内容を織り交ぜていただきながら、どのように海外に渡りキャリアを積み上げて行ったのか、海外でのてんかん診療との差異等について経験を語っていただく。今後の若手医師・若手コメディカルのエールになるような内容となることを願っている。

**PS4-1 米国の大学病院におけるてんかん診療・教育・研究の実際**

Current clinical practice, education, and research of epilepsy in University Hospitals in USA

- 成相 宏樹

Pediatric Neurology, David Geffen School of Medicine at UCLA ; UCLA Mattel Children's Hospital

**PS4-2 アメリカのてんかん専門医**

Practicing Epilepsy Provider in USA Community

- 長谷川 寿紀

サウスカロライナ大学医学部グリーンビル校

**PS4-3 脳波検査技師からてんかん研究者への道**

The journey for becoming clinical epilepsy researcher in the US

- 藤原 久子

Cincinnati Children's Hospital Medical Center

てんかん医療をとりまく社会 (てんかんの病名を考える)

座長: 田中 正樹 (田中神経クリニック)

【趣旨・狙い】

現状では、てんかんは、臨床発作症状と脳波をもとに診断が行われています。一方、てんかんの「癲」は辞書を引くと、気が狂う、と説明されています。また、てんかんの「癇」は、神経が過敏で、小さなことにもいら立ったり怒ったりすることと説明があります。医学的に定義されたてんかんと、てんかんという病名との間に、乖離があるのは否めない事実です。

病名に病態が正確に反映されていないと、患者さんの病態が正しく理解されないだけでなく、診断された患者さんに不利益が生じる可能性があります。また、患者さんの尊厳が損われることになります。

てんかん以外の分野を見渡すと、精神薄弱は知的障害に、分裂病は統合失調症に、痴呆は認知症にそれぞれ呼称が変更されてきました。近隣のアジア諸国では、てんかんの病名の変更がなされています。日本においても、てんかんという病名の変更を、検討する時期にあると考えられます。

PS5-1 いわれなき差別

Let's change the name of disease

- 伊藤 玄二郎  
星槎大学

PS5-2 これまでの病名変更の議論

Argument of the former diagnosis change

- 田所 裕二  
日本てんかん協会 (波の会)

PS5-3 「てんかん」という病名を患者はどう受け止めているか

How is the patient taking the disease name "epilepsy"

- 原 隆也  
読売新聞東京本社医療部

PS5-4 「痴呆」から「認知症」へ

On the change of dementia naming in Japanese

- 松下 正明  
東京大学名誉教授

### てんかん専門クリニックの現状と未来

座長：原 恵子 (原クリニック)

宮本 雄策 (川崎市立多摩病院小児科)

#### 【趣旨・狙い】

現在てんかん専門医が増加に伴い、クリニック(無床の医療機関)で勤務する専門医が増加しており、てんかん地域診療やネットワークの重要な一部を担うことが期待される。てんかんセンターのあり方や、てんかん診療拠点、てんかん診療ネットワークの構築等についてその必要性が認知され、広く議論されているところであるが、一方でてんかん専門クリニックについては、その可能性や役割等があまり広く知られていない。

このセッションでは、てんかん診療ネットワークにおけるてんかん専門クリニックの立場や可能性、困難な点などを明らかとし、今後の日本のてんかん診療におけるてんかん専門クリニックの役割について議論する。

#### PS6-1 包括診療におけるてんかん専門クリニック

Epilepsy Clinics in Comprehensive Care

○寺田 清人<sup>1)</sup>、井上 有史<sup>1)</sup>、西田 拓司<sup>1)</sup>、山野 光彦<sup>2)</sup>、田所 裕二<sup>3)</sup>、青柳 智夫<sup>3)</sup>

1) 国立病院機構静岡てんかん・神経医療センターてんかん科

2) 東海大学医学部内科学系神経内科学 3) 日本てんかん協会

#### PS6-2 小児専門医療機関から他院へのてんかん患者の移行：てんかん専門クリニックに期待する役割

Transition from children's medical center to other medical institution : expected roles of epilepsy clinics

○後藤 知英

神奈川県立こども医療センター神経内科

#### PS6-3 てんかん専門クリニックでの診療の実際

Clinical practice in epilepsy clinic

○小出 泰道

小出内科神経科

#### PS6-4 クリニックとしての機動力を活かす—多機能垂直型診療所について—

Clinic's Advantage : Mobility—multifunctional vertical-type clinic—

○福智 寿彦

医療法人福智会すずかけクリニック

- PS6-5 てんかん専門クリニックの現状**  
Report from Epilepsy Clinic in Matsuyama City  
○梅岡 秀一  
うめおか神経クリニック

---

企画セッション7 第3会場 (303) 第2日/10月26日(金) 10:00~11:50

---

**脳卒中後てんかん—最新知見から連携の必要性を考える—**

座長：長谷川 泰弘（聖マリアンナ医科大学内科学神経内科）  
山野 光彦（東海大学医学部内科学系神経内科学）

**【趣旨・狙い】**

本邦は超高齢社会を迎え、高齢発症てんかんのマネジメントは重要な課題である。本病態の原因は、脳卒中を基盤とした「脳卒中後てんかん」がもっとも多い。本企画では脳卒中後てんかんに焦点を当て、基礎から臨床まで、また本会専門医に加え、脳卒中専門医からの視点も踏まえ、病態の発症機序、疫学、リスク因子、臨床の特徴、診断・治療のポイント、考え方等を各々の立場から討論し、本領域と脳卒中領域との連携の必要性を探る。

- PS7-1 重症脳卒中・損傷脳における神経生理と脳循環代謝—cortical spreading depolarization—**  
Neurophysiology and CBF & metabolism in the pathophysiology of severe cerebral ischemia and traumatic brain injury—Cortical spreading depolarization—

○鈴木 倫保、岡 史朗、野村 貞宏、井上 貴雄、井本 浩哉、杉本 至健、石原 秀行、  
末廣 栄一  
山口大学大学院医学研究科脳神経外科

- PS7-2 脳卒中専門医は脳卒中後てんかんをどう考えるか？：最新の知見から**  
Post stroke epilepsy : How stroke specialists find and treat them?

○平野 照之  
杏林大学医学部脳卒中医学

- PS7-3 てんかん専門医は脳卒中後てんかんをどう考えるか？：最新の知見から**  
How do epilepsy specialists think poststroke epilepsy from the newest knowledges?

○高瀬 敬一郎  
飯塚病院脳神経内科

- PS7-4 脳卒中後てんかんの急性期対応とその後の治療（NCSEを含む）**  
Acute and long-term management of post-stroke epilepsy

○溝渕 雅広  
中村記念病院神経内科・てんかんセンター

**PS7-5 指定発言：脳卒中後てんかん 脳卒中専門医とてんかん専門医の協力**

Post-stroke epilepsy, collaboration of stroke and epilepsy specialists

○赤松 直樹<sup>1,2)</sup>

1) 国際医療福祉大学医学部神経内科 2) 福岡山王病院脳神経機能センター

---

企画セッション 8

第3会場 (303) 第2日/10月26日(金)

14:00~15:50

---

**てんかん医療と精神医療の連携**

座長：谷口 豪（東京大学医学部附属病院精神神経科）

山田 了士（岡山大学大学院精神神経病態学）

**【趣旨・狙い】**

リエゾン・コンサルテーション精神医学とは、身体疾患で治療を受けている患者の精神心理的問題に対応する精神医学の一分野である。てんかんの包括医療を実践する上で、リエゾン精神医学の連携手法を取り込むことは重要であるが、残念ながらてんかんがリエゾン精神医学の対象として捉えられることはあまり多いとはいえない。小児から高齢者に至るまで、てんかんに随伴する様々な精神心理的問題の多さを考慮すれば、てんかんを専門としないリエゾン精神医療者との連携をより密にする必要がある。このセッションでは、小児と成人のてんかん診療医から精神心理的問題に関する現状と課題について、またリエゾン精神科医と臨床心理士から提供できる診療内容について話し合っただき、それぞれの意見を総合して、てんかん医療と精神医療の新たな連携の形（psycho-epileptology）を模索する。

**PS8-1 てんかん医療と精神医療の連携小児てんかん診療の立場から**

Psychiatric problem in pediatric epilepsy care

○白石 秀明

北海道大学病院小児科・てんかんセンター

**PS8-2 成人てんかん診療の立場から**

From the position of the adult diagnosis and treatment department

○山野 光彦

東海大学医学部内科学系神経内科学

**PS8-3 心理職から提供できること**

The role of psychologists in epilepsy care

○小川 舞美<sup>1)</sup>、藤川 真由<sup>1)</sup>、佐久間 篤<sup>2)</sup>、神 一敬<sup>3)</sup>、中里 信和<sup>3)</sup>

1) 東北大学病院てんかん科 2) 東北大学病院精神科

3) 東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野

**PS8-4 リエゾン精神科医から提供できること**

Consultation-liaison psychiatrist's role for epilepsy patients

○和田 健

広島市立病院機構広島市立広島市民病院精神科

### てんかん病態の実際：画像と病理

座長：柿田 明美 (新潟大学脳研究所病理学分野)

松田 博史 (国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター)

#### 【趣旨・狙い】

局在性難治てんかん原性病巣に対し、文字通りメスが入れられるようになって参りました。そうした脳病巣の局在あるいは病因論を理解する上で、画像所見の読みは重要です。また、切除された脳病巣の病理組織学的読みも、病態形成機序を知る上で重要です。本シンポジウムでは、てんかん病態の理解を深めることを目的に、画像と病理：それぞれのエキスパートペアに自験例を踏まえた最新の知見を提示してもらい discussion を進める予定です。前半のペアには乳幼児・小児疾患を中心に、後半のペアには成人・高齢者の病態を取り上げて頂く予定です。

### PS9-1・2 小児てんかん外科治療における画像診断と病理診断

Diagnostic imaging and pathological diagnosis in pediatric epilepsy with surgical treatment

○森本 笑子<sup>1)</sup>、齊藤 祐子<sup>2)</sup>

1) 国立精神・神経医療研究センター病院放射線診療部

2) 国立精神・神経医療研究センター病院検査部

### PS9-3 てんかん病態の実際：画像と病理

MR imaging of adult epileptic diseases

○中田 安浩

東京都立神経病院神経放射線科

### PS9-4 難治性てんかんの病理：成人期の病態

Neuropathology of Intractable Epilepsy in Adults

○宮田 元

秋田県立脳血管研究センター脳神経病理学研究部

### 新しいてんかん・発作分類を学ぶ

座長：中川 栄二（国立精神・神経医療研究センター病院小児神経科）

寺田 清人（国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター）

#### 【趣旨・狙い】

2017 年に ILAE より新しいてんかん分類、発作分類が提案された。Epilepsia ではこの新分類の使用が推奨されており、今後、様々な場ですることになると思われる。この新しい分類が実際の実臨床の場で活用できるのか、もしくは問題点があるとするばどの様な問題点かを検討する。発作分類については、ビデオで記録された実際の発作に対して、新しい分類を適用しつつ検討する。また、てんかん分類についても、実際の症例に適用しながら、使用法や問題点を検討する。また、本分類は英語で作成されているが、本語訳についてもディスカッションをう。

#### PS10-1 発作分類：focal onset seizure

Classification of seizure types. Focal onset seizure

○池田 仁

国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター神経内科

#### PS10-2 新しいてんかん・発作分類：全般てんかん

New classification of the seizure type and epilepsy type : generalized epilepsy

○中川 栄二

国立精神・神経医療研究センター病院小児神経科

#### PS10-3 ILAE2017 年てんかん分類

2017 ILAE classification of the epilepsies

○加藤 昌明

むさしの国分寺クリニック

**てんかん発作検知・予測を目指した最近の研究動向**

座長：神 一敬（東北大学大学院てんかん学分野）

渡邊 さつき（埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科）

**【趣旨・狙い】**

てんかん発作検知・予測を目指してこれまでに多くの試みがなされてきたが、まだ実臨床において広く用いられるようなシステムは確立されていない。特に脳波を用いた研究は数多く発表されてきたが、その感度・特異度の問題だけでなく、脳波電極の装着、脳波計が必要とされ日常生活中に記録することが難しいという問題点がある。本シンポジウムでは発作検知・予測を目指した最近の研究として、動画像を用いた発作検知および心拍変動を用いた発作予測を紹介し、今後の展望を探る。

**PS11-1 動画像によるてんかん発作検知**

Detection of epileptic seizures using video analysis

○渡邊 さつき

埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

**PS11-2 ウェアラブル心拍変動センサを用いたてんかん発作予測システムの開発**

Development of epileptic seizure prediction system using wearable heart rate variability sensor

○藤原 幸一

京都大学情報学研究科

**PS11-3 心拍変動モニタリングに基づくウェアラブルてんかん発作予測システム**

Development of an Epileptic Seizure Prediction System Based on Heart Rate Variability Monitoring

○宮島 美穂

東京医科歯科大学大学院心療・緩和医療学分野

**急性脳炎・脳症への対応**

座長：山内 秀雄（埼玉医科大学病院てんかんセンター・小児科）

奥村 彰久（愛知医科大学小児科）

**【趣旨・狙い】**

急性脳炎・脳症は新生児期から成人まで幅の広い年齢で発症し、しばしば神経学的な後遺症をきたす重篤な疾患である。意識障害・けいれん重積状態等の対応も含む急性期の適切な全身管理を施行しつつ、正確な診断へのアプローチを如何に行い、結果を治療へどのようにフィードバックすべきなのか、また神経学的後遺症としてしばしば認められる難治てんかんにどのように対応すべきなのかについて、これまでのガイドラインを踏まえながら最新知見に基づく議論を行う。

**PS12-1 急性脳炎・脳症とてんかん発生機序**

Mechanisms of post encephalitic epilepsy

○佐久間 啓

公益財団法人東京都医学総合研究所脳発達・神経再生研究分野

**PS12-2 成人脳炎・脳症における対応—ガイドラインを中心に—**

Clinical management of adult encephalitis and encephalopathy

○亀井 聡

日本大学医学部内科学系神経内科学分野

**PS12-3 小児の急性脳炎・脳症への対応：ガイドラインを中心に**

Clinical Managements of Acute Encephalopathy and Encephalitis Based on the Practice Guidelines

○山内 秀雄<sup>1,2)</sup>

1) 埼玉医科大学小児科 2) 埼玉医科大学病院てんかんセンター

**PS12-4 脳炎関連てんかんと外科治療**

Neurosurgical interventions for encephalitis-related seizures and epilepsy

○小野 智憲<sup>1)</sup>、本田 涼子<sup>1)</sup>、渡邊 嘉章<sup>1)</sup>、馬場 啓至<sup>2)</sup>、戸田 啓介<sup>3)</sup>

1) 国立長崎医療センターてんかんセンター 2) 西諫早病院てんかんセンター

3) 国立長崎川棚医療センター脳神経外科

座長：高橋 孝雄（慶應義塾大学医学部小児科）

**ML1 発作症状のビデオ脳波：小児**

Ictal Video EEGs of epileptic seizures in children

○須貝 研司

ソレイユ川崎・聖マリアンナ医科大学小児科

---

マラソンレクチャー 2 第 4 会場 (304) 第 1 日/10 月 25 日(木) 11:00~11:50

---

座長: 中野 美佐 (市立吹田市民病院神経内科)

**ML2** てんかん発作ビデオ記録から学ぶ

What we learn from video EEG recordings of seizures?

○赤松 直樹

国際医療福祉大学医学部神経内科/福岡山王病院脳神経機能センター

---

マラソンレクチャー 3 第 4 会場 (304) 第 1 日/10 月 25 日(木) 13:10~14:50

---

座長: 廣瀬 伸一 (福岡大学医学部小児科)

**ML3** 遺伝子からみた、てんかんの機序

Gene as the mechanism of epilepsy

○石井 敦士

福岡大学医学部小児科学教室

---

マラソンレクチャー 4 第 4 会場 (304) 第 1 日/10 月 25 日(木) 14:10~15:50

---

座長: 吉永 治美 (国立病院機構南岡山医療センター)

**ML4** 女性とてんかん (妊娠・出産)

Management issues for women with epilepsy—Focus on pregnancy

○原 恵子<sup>1,2)</sup>

1) 原クリニック 2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

---

マラソンレクチャー 5 第 4 会場 (304) 第 1 日/10 月 25 日(木) 16:00~17:00

---

座長: 兼本 浩祐 (愛知医科大学精神科学講座)

**ML5** てんかんと精神症状

Epilepsy and psychiatric symptoms

○渡邊 さつき

埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

---

マラソンレクチャー 6                      第 4 会場 (304)   第 1 日/10 月 25 日(木)                      17:10~18:10

---

座長：岩佐 博人 (社会医療法人社団同人会木更津病院きさらづてんかんセンター)

**ML6**                      高齢者のてんかん

Epilepsy in the elderly

○吉野 相英

防衛医科大学校精神科学講座

---

マラソンレクチャー 7                      第 4 会場 (304)   第 2 日/10 月 26 日(金)                      14:00~15:00

---

座長：新島 新一 (順天堂大学医学部附属練馬病院小児科)

**ML7**                      トランジションと成人期の QOL を考えた小児てんかん診療

Management of Epilepsy during Childhood for Seamless and Smooth Transition, and Better QOL

○浜野 晋一郎

埼玉県立小児医療センター神経科

---

マラソンレクチャー 8                      第 4 会場 (304)   第 2 日/10 月 26 日(金)                      15:00~15:50

---

座長：山本 貴道 (聖隷浜松病院てんかんセンター)

**ML8**                      成人てんかん重積状態

Status epilepticus in adults

○溝渕 雅広

中村記念病院神経内科・てんかんセンター

---

マラソンレクチャー 9                      第 4 会場 (304)   第 2 日/10 月 26 日(金)                      16:00~16:50

---

座長：林 雅晴 (淑徳大学看護栄養学部看護学科)

**ML9**                      てんかんの社会福祉制度

Social Support for People with Epilepsy (PWE)

○久保田 英幹

国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

---

マラソンレクチャー 10 第 4 会場 (304) 第 2 日/10 月 26 日(金) 17:00~18:00

---

座長：三國 信啓 (札幌医科大学脳神経外科)

**ML10 小児期のでんかん外科適応評価**

Presurgical evaluation of children with intractable epilepsy

○齋藤 貴志

国立精神・神経医療研究センター病院小児神経科

---

プレコングレスシンポジウム 第 3 会場 (303) 前日/10 月 24 日(水) 17:00~19:00

---

**Advanced ECoG/EEG Analysis in Epilepsy 2018**

座長：加藤 天美 (近畿大学脳神経外科)

津田 一郎 (中部大学創発学術院)

**【概要】**

デジタル脳波計による波形データの解析は単なる視察を超えた様々な解析を可能とし、てんかん焦点の検索や脳機能のマッピング、ブレイン・マシンインターフェースなど様々に利用されています。この分野は数学・情報学・理工学など基礎系・理論系の研究者と臨床系研究者とが密接にかかわりあいながら発展しており、その成果の一端を示しながら、今後の発展や臨床応用、新たなアイデアなどを話し合う場となることを期待します。(今年からサテライト研究会として発足しました。奮ってご参加ください。)

**【企画の到達目標】**

この学際的企画を通じて、基礎・理論系の研究者がてんかん研究に、そして臨床家が最新の信号解析法や数学理論などに対する興味を持つことで、てんかん病態・脳機能の解明と解析法の臨床応用へ向けて、双方の協力関係がさらに発展することを目標とします。

**AEEE-1 High frequency stimulation of the anterior nucleus of thalamus desynchronizes epileptic networks in human**

○Liankun Ren

Department of Neurology, Xuanwu Hospital, Beijing, China

**AEEE-2 てんかん性高周波振動の意義と臨床応用**

Impact of high frequency activity in epileptogenesis

○小林 勝弘

岡山大学小児神経科

**AEEE-3 数理モデルからのてんかん原性のアプローチ**

Probing epileptogenesis using mathematical models

○行木 孝夫

北海道大学大学院理学研究院数学部門

**AEEE-4 ECoG gamma および ultra-gamma 活動を用いた術中手機能マッピング**

Intraoperative Investigation of Gamma and Ultra-Gamma Modulations of ECoG for the Mapping of Hand Function

○Nuri Firat Ince

Department of Biomedical Engineering, University of Houston

**AEEE-5 ECoG による脳機能マッピング：この 1 年の動向**

Overview of the trend of functional brain mapping using ECoG in Year 2017-2018

○宇佐美 清英

大津赤十字病院神経内科

---

ポストコンgressシンポジウム 第 5 会場 (313+314) 第 3 日/10 月 27 日(土) 13:20~16:10

---

**てんかんのある人、こども、家族のための心理教育**

座長：井上 有史 (国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター)

大塚 頌子 (旭川荘療育・医療センター)

西田 拓司 (国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター)

**【趣旨・狙い】**

てんかんのある人はてんかんに関する情報を得ることを望んでいるにもかかわらず、十分な知識に乏しいとされる。また、てんかん発作に対する不安、抑うつ、自尊心の低下など心理面の問題を抱えていることも少なくない。このことはてんかんのある成人だけでなく、こどもにも当てはまり、その家族も巻き込む。てんかんの心理教育は、知識を提供し、当事者と家族がてんかんを受け入れ、積極的に治療に参加し、前向きに病気と向き合うようになるための支援であり、てんかん治療の基盤となる。

本セッションでは、ドイツのベートルてんかんセンターから、長年てんかんの心理教育に従事されてきた Pfäfflin 先生をお招きして、てんかんの心理教育の総論とご経験をお話して頂く。そして、本邦で行われているてんかんのある成人、てんかんのある子どもと家族、そして心因性非てんかん性発作の心理教育について、各分野の専門家に発表して頂き、参加者で議論を深めたい。

**PCS-1 Psychoeducation in epilepsy**

○Margarete Pfäfflin

Epilepsy Center Bethel (ret.), Bielefeld, Germany

**PCS-2 患者学習プログラム MOSES (モーゼス) の有用性**

Efficacy of MOSES (Modular Service Package Epilepsy) for Japanese Patients with Epilepsy

○山崎 陽平

国立病院機構静岡てんかん神経医療センター

**PCS-3 当科におけるてんかん患者の心理教育**

Psychoeducation for patients with epilepsy in our hospital

○本岡 大道<sup>1)</sup>、森田 武伯<sup>2)</sup>、伊東 祐二<sup>1,3)</sup>、安元 眞吾<sup>1)</sup>、増本 政也<sup>1,4)</sup>

1) 久留米大学医学部神経精神医学講座 2) 佐世保愛恵病院 3) 西脇病院 4) 聖マリア病院

**PCS-4 てんかんのある子ども、家族の心理教育**

Psychological education to be conducted for children and families who have epilepsy

○松田 春美

国立病院機構静岡てんかん神経医療センター

**PCS-5 心因性非てんかん性発作がある人の心理教育**

Psychoeducation for patients with psychogenic nonepileptic seizures (PNES)

○谷口 豪<sup>1)</sup>、藤岡 真生<sup>1)</sup>、岡村 由美子<sup>1)</sup>、矢野 健一<sup>2)</sup>

1) 東京大学医学部附属病院精神神経科 2) 東京大学医学部附属病院リハビリテーション部

---

第9回てんかん専門医指導医講習会 第2会場 (503) 第1日/10月25日(木) 8:00~8:50

---

座長：小林 勝弘 (岡山大学小児神経科)

**TS てんかん患者さんの妊娠と出産について**

Issues about pregnancy and delivery in the women with epilepsy

○佐世 正勝

山口県立総合医療センター産婦人科

---

第13回てんかん学研修セミナー 第4会場 (304) 第3日/10月27日(土) 13:30~16:30

---

座長：山田 了士 (岡山大学大学院精神神経病態学)

**【趣旨・狙い】**

「日本てんかん学会研修到達目標」に従って、基礎神経科学、成人てんかんの診断、成人てんかんの治療、小児てんかんの診断と治療、てんかん外科、リハビリ・就労・法律の6分野において、それぞれ予め設定された年毎のテーマについて研修を行うことを基本方針とします。基本的知識を網羅して把握できるようにすると共に、ガイドラインも踏まえ、ビデオ供覧や症例呈示により実例から学ぶことを重視します。4年間で1つのシリーズとなり、今年度は新しいシリーズの1回目となります。てんかん学会専門医あるいはそれを目指す医師はもちろんのこと、てんかんにご関心をお持ちの医療従事者の方も受講できます。セミナー修了後に専門医更新の研修単位10単位授与されます。定員がありますので、事前に大会ウェブサイトよりお申し込み下さい。

**ESTS-1 基礎：てんかん治療におけるグルタミン酸受容体**

○植田 勇人

三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座精神神経科学分野

**ESTS-2 成人診断：てんかん診断の手順と鑑別診断**

○溝渕 雅広

中村記念病院神経内科・てんかんセンター

**ESTS-3 成人治療：てんかん治療と妊娠・出産**

- 渡辺 雅子  
新宿神経クリニック

**ESTS-4 小児：小児てんかんに対する治療の開始と終了**

- 榎 日出夫  
聖隷浜松病院てんかんセンター

**ESTS-5 外科：てんかん診療に携わる内科系医師に理解してもらいたい難治性てんかんに対する外科治療**

- 森野 道晴  
熊谷総合病院脳神経外科・てんかんセンター

**ESTS-6 リハビリ、就労、法律：てんかん患者の地域ケア**

- 久保田 英幹  
国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

---

**市民公開講座**

**第3会場 (303) 第3日/10月27日(土)**

**14:00~16:20**

---

**こどものてんかん～なおるてんかん・てごわいてんかん～**

座長：川上 康彦（日本医科大学武蔵小杉病院小児科）

宮本 雄策（川崎市立多摩病院小児科）

**【趣旨・狙い】**

てんかん医療はその歴史的経緯から「どの医療機関が専門的診療を行うのか周知されていない」と指摘される我が国の現状に対して厚労省が「てんかん地域診療連携体制整備事業」という政策を開始し、神奈川県が全国8つの対象県の一つに選定されました。これを受け県内医療機関でてんかん診療に携わる医師と、県庁及び民間の関係者の方々が集結して「神奈川県てんかん治療医療連携協議会」が発足しました。この組織は定期的に会合を開き情報を交換・共有するとともに、てんかんという一般にはその実態が把握され難いと考えられる疾病の啓発を旨とし県内各地で「てんかんの市民公開講座」を開催し大好評を戴いています。このような背景・地盤を持つ神奈川県で開催される第52回の学術集会においても、一般の方々の知識向上と啓発に寄与したいという山本大会長の熱意を受け本講座が企画されました。県内でてんかん診療最前線に従事する先生方の講演にご期待ください。

**COL-1 こどものなおるてんかん～その「配慮」は不要ですよ！～**

Idiopathic epilepsy in childhood

- 宮本 雄策  
川崎市立多摩病院小児科

**COL-2 こどもの“てごわい”てんかん**

Intractable epilepsy in children

- 岩崎 俊之<sup>1,2)</sup>  
1)北里大学医学部小児科 2)北里大学東病院小児在宅支援センター

**COL-3** てんかん外科治療 難しいてんかんを治すやさしいお話

○太組 一朗

聖マリアンナ医科大学脳神経外科・神奈川てんかんセンター

**COL-4** てんかんと小児病院

Epilepsy and Children's hospital

○山下 純正

神奈川県立こども医療センター